

くらしき

塩と綿花のまち

新聞

発行者

倉敷市立茶屋町小学校

6年4組

(竹野真一)

発行日

(2023)年
(8)月(11)日

吉備の穴海

岡山県の南部

一帯はかつて「吉備の

穴海」と呼ばれ、大小の島

々が点在する二面の海で

した。岩塩資源の少な

い日本では、大昔から

塩は海水を原料として作られてきました。

1829年、



野崎武左衛門



児島郡味野村に居
住するようになった
野崎武佐衛門によ
て味野村、赤崎村
の沖合に塩田が作ら
れました。



現在でも児島の塩は
有名で、製造方法が変
わっても、今なお続い
ています。



塩田の風景

綿花がつくる倉敷の敏系栄

近世以降、干拓によって陸地が増

えてきました。しかし、塩分を多く

ふくむ土では米づくりは不向きで

した。そこで

考えら

れたのが、

塩分に

強い綿花やイグサの栽培でした。

この綿花を使った綿

製品や塩田で作った塩が

多く出荷され、換金さ

れていきました。

また、綿と並んでイ

グサも庄村、茶屋町地域を中

心に、江戸時代から栽培されてお

り、その敏系栄ぶりは、備中茶屋

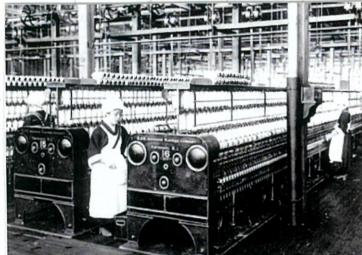
町今神戸といわれるほどだったと

伝えられています。

日本遺産のまち 倉敷市

日本遺産のまち 倉敷市

日本遺産のまち 倉敷市



明治時代以降、
文明開化によっ
て倉敷は紡
績産業のまち
に生まれかわ
りました。代表
的なのが倉敷
紡績所です。(現クラレ)現在、その建
物は次女を
変えて倉敷
アイビスク
エアとして存
在しています。
2017年平成29年、文化庁により
倉敷市は日本遺産に登録されまし
た。繊維のまちとして年間出荷
額日本一を誇っています。
かつては荷物の運搬に使用されてい
た倉敷川ですが、今では多くの観
光客を乗せた小舟
が行き交っています。



アイビススクエアの
昔(上)と今(下)



日本遺産のまち 倉敷市



明治時代の
倉敷川
あとがき
自分たちが住ん
でいる倉敷市が
すばらしいと思いま
した。また美観地区に行
きたいです。

